

コロンビア政治外交情勢（２０２５年５月）

1 概要

【内政】

- （１）政府による国民投票実施提案を支持するための親政府デモ
- （２）ペトロ大統領による国内治安に関する演説
- （３）レイバ元外務大臣による２通目のペトロ大統領告発書簡
- （４）国家防災局を巡る汚職疑惑：前上下両院議長の逮捕
- （５）行政裁判所、上院副議長選挙を無効とする
- （６）労働改革に関する国民投票実施提案の否決
- （７）ブイトラゴ法務大臣の辞任
- （８）上院第４委員会が労働改革法案を可決
- （９）国民投票を支持するための親政府ストライキ及びデモ
- （１０）世論調査

【外交】

- （１）ヒル元外務副大臣が米州機構副事務総長に選出
- （２）マルティネリ・パナマ元大統領への亡命許可
- （３）ペトロ大統領等の CELAC－中国閣僚級会合出席
- （４）コロンビア・中国首脳会談
- （５）米務省によるコロンビアと中国の一带一路イニシアチブに基づく合意に関する声明
- （６）ペトロ大統領、ローマ教皇レオ１４世就任式に出席
- （７）ペトロ大統領、ノボア・エクアドル大統領就任式に出席
- （８）カリブ諸国連合（ACS）第１０回首脳会合

2 本文

【内政】

- （１）政府による国民投票実施提案を支持するための親政府デモ

１日、労組等の呼びかけにより、労働改革に関する国民投票実施提案を支持する親政府デモが国内各地で行われた。ペトロ大統領は、デモの最後に演説を行って国民投票実施に対する支持を訴えた後、上院に対し１２の質問からなる国民投票実施提案を提出した。

- （２）ペトロ大統領による国内治安に関する演説

５日、ペトロ大統領は閣議において、国内で広がる治安に対する懸念に関する演説を行い、現在のコロンビアには暴力による混乱は存在しないと述べた。また、そのような懸念は野党

及びメディアが作り出した嘘であり、ドゥケ前大統領が悪化させた治安の改善に取り組んでいるのが実情であると説明した。

（３）レイバ元外務大臣による２通目のペトロ大統領告発書簡

６日、レイバ元外務大臣は、ペトロ大統領の薬物依存症に関する２通目の告発書簡を公表した。同書簡では、１通目と同様、具体例を挙げながらペトロ大統領が薬物依存症であると主張し大統領職を辞するよう勧めている。

（４）国家防災局を巡る汚職疑惑：前上下両院議長の逮捕

７日、最高裁判所は、国家防災局（UNGRD）を巡る汚職疑惑に関与したとされるナメ上院議員（前上院議長）及びカジェ下院議員（前下院議長）に対し、収賄及び横領の容疑で逮捕命令を出し、同日両議員が拘束された。本件疑惑では、大統領府の指示に基づいて国家防災局内で裏金が捻出され、議会对策のため当時の上下両院議長等に不当な資金が渡ったとされる。

（５）行政裁判所、上院副議長選挙を無効とする

９日、行政裁判所は、昨年７月に行われた上院副議長選挙について、少数政党優遇及び性別平等を保障する原則に違反したとしてこれを無効とした。これを受け、２０日、ロレナ・リオス第一副議長（自由党）及びパオラ・オルギン第二副議長（民主中道党）が新たに選出された。

（６）労働改革に関する国民投票実施提案の否決

１４日、政府が提出した労働改革に関する国民投票実施提案の採決が上院で行われ、反対多数で否決された。これに対し、ペトロ大統領やベネデッティ内務大臣は採決に不正があったと批判した。１９日、政府は医療保険制度改革に関する４つの質問を加えた計１６の質問からなる国民投票提案を再度上院に提出した。

（７）ブイトラゴ法務大臣の辞任

１５日、ブイトラゴ法務大臣が政権関係者等から不当な圧力や干渉を受けたとして辞任を表明した。また、同大臣はメディアに対し、ベネデッティ内務大臣やロドリゲス大統領府長官からそのような不当な圧力を受けたと述べたが、両者はこれを否定した。

（８）上院第４委員会が労働改革法案を可決

２７日、上院第４委員会は政府が提出した残業代や週末・祝日勤務代の割増等について定めた労働改革法案を一部修正の上可決した。これに対し、ペトロ大統領は、４月に同法案が否決されたにもかかわらず、国民投票提案を行った後に同法案が可決されたとしてこれを

批判するとともに、政令を通じ国民投票を招集する方針を示した。

（９）国民投票を支持するための親政府ストライキ及びデモ

２８日及び２９日、労組等の呼びかけにより、政府による国民投票実施を支持するための親政府ストライキ及びデモが全国で行われた。これにより、通勤をはじめとした市民生活に一部支障が出たほか、警察に抗議者が排除されるケースが複数みられたが、基本的には参加者が限定的であり平和裏に終了した。

（１０）世論調査

Cifras y Conceptos 社が実施した５月世論調査では、ペトロ大統領に対し４５％がポジティブな印象、５２％がネガティブな印象をもっていると回答した。また、ペトロ政権による国民投票実施提案については、５７％が賛成、４０％が反対と回答した。

【外交】

（１）ヒル元外務副大臣が米州機構副事務総長に選出

５日、ラウラ・ヒル駐オーストリア・コロンビア大使（元外務副大臣）が米州機構（OAS）副事務総長として選出された。任期は２０２５年から２０３０年までの５年間となり、コロンビアから同職に就任するのは初めてとなる。

（２）マルティネリ・パナマ元大統領への亡命許可

１０日、コロンビア外務省は声明を通じ、汚職等の罪で刑を言い渡されていたマルティネリ・パナマ元大統領に対し、政治的な亡命を認めて同人をコロンビアへ受け入れた旨明らかにした。この措置についてペトロ大統領は、政治的理由で迫害されている人々を保護するのがコロンビアの伝統であると説明した。

（３）ペトロ大統領等の CELAC－中国閣僚級会合出席

１３日、訪中中のペトロ大統領は、北京で行われた CELAC－中国閣僚級会合に CELAC 議長国として出席した。同大統領は演説において、中南米地域と中国は両大洋を繋ぐために働く必要があり、クリーンエネルギーや脱炭素化等の分野で協力を深める必要があると訴えた。

（４）コロンビア・中国首脳会談

１４日、ペトロ大統領は北京において習近平国家主席とコロンビア・中国首脳会談を行い、両国の通商、投資、クリーンエネルギー等を通じた関係強化について協議した。また、両国の間で一帯一路イニシアチブに基づく二国間合意文書「協力計画」への署名が行われた。なお、１１日にはサラビア外務大臣が王毅外務大臣と外相会談を行い、両国間の戦略的プロジ

ェクト推進等について協議を行った。

(5) 米 국무省によるコロンビアと中国の一帶一路イニシアチブに基づく合意に関する声明

15日、米 국무省は、コロンビアによる中国の一帶一路イニシアチブ加入について、残念であり逆効果であるとの声明を発表するとともに、国際開発金融機関によるコロンビアへの中国関係プロジェクトに反対する立場を表明した。

(6) ペトロ大統領、ローマ教皇レオ14世就任式に出席

18日、ペトロ大統領は、バチカンで行われたローマ教皇レオ14世就任式に出席した。また、19日には同教皇と会談を行い、コロンビア和平等について意見交換を行うとともに、コロンビアへの公式訪問を要請した。

(7) ペトロ大統領、ノボア・エクアドル大統領就任式に出席

24日、ペトロ大統領は、キトで行われたノボア・エクアドル大統領就任式に出席し、その後同大統領と組織犯罪対策協力等について意見交換を行った。ちなみに、当初ペトロ大統領は、4月に行われたエクアドル大統領選挙プロセスを疑問視した上で選挙結果の承認を控えていた。

(8) カリブ諸国連合 (ACS) 第10回首脳会合

30日、コロンビア政府は、コルドバ県モンテリアにおいてカリブ諸国連合 (ACS) 第10回首脳会合を開催し、気候変動や食糧・エネルギー安全保障等に関するコミットメントを盛り込んだモンテリア宣言を採択した。なお、ペトロ大統領は当初出席が予定されていたものの欠席することとなった。

(了)